



## ■大崎モデルが世界を救う■

# ごみ資源化で埋め立て処分量の 減量化に挑戦!



10月15日(月)から19日(金)までの5日間、インドネシア国デポック市から行政、コミュニティ、大学などで環境・教育分野に携わるリーダー7名が本町を訪問しました。

独立行政法人国際協力機構(ICA)の補助を受け、インドネシア国デポック市の廃棄物の減量化及び環境教育を支援する草の根技術協力事業の一環として受け入れを行ったものです。

視察団は、町内のごみの分別状況やリサイクルセンターでの中間処理状況や生ゴミの堆肥化などの視察研修を行いました。

閉講式では、デポック市の地域振興局長のエティ・スルヤハティさんが「住民、行政、企業の連携したシステムが参考になった。大崎モデルをめざして、ごみ資源化でごみの埋め立て処分量の減量化に挑戦したい。」と話されました。



▲牛乳パックの分別風景



▲生ゴミの収集状況



▲自治会の資源ごみ収集状況

### 大崎モデルを世界へ

ごみのリサイクル率日本一を5年連続達成している本町は、インドネシアデポック市の廃棄物の資源化を支援する『草の根技術協力事業』に取り組んでいます。

本町のリサイクルシステム(大崎モデル)が全世界に広がり地球規模で環境を考える機会になることを願っています。



▲生ゴミ堆肥化学習  
【大崎有機工場】



▲コンポスト(堆肥化)体験  
【大崎有機工場】



▲埋立処分場の搬入状況  
【清掃センター】

